
隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」 第 384 号

—環境・農業・食べ物など情報の交流誌—

2015.10.30（金）発行 山崎農業研究所&編集同人

<キーワード>

環境・農業・健康・食べ物などの情報提供、高齢者と若者、農村と都市の
交流ミニコミ誌。山崎農業研究所&『電子耕』編集同人が編集・発行。

<http://www.yamazaki-i.org>

*****発行部数 1,018 部*****

□ 目次 □-----

<巻頭言> これから——平和日本をとりもどす 塩谷哲夫

<お知らせ 1> 山崎農業研究所所報『耕 No.136』発行されました

<お知らせ 2> 山崎農研編「平成のマドンナ」シリーズ No.8 完成しました

<新刊紹介>

山安富六郎著『武蔵野・江戸を潤した多摩川——多摩川・上水徒歩思考』

<編集後記> 民主主義における勝ち負け

<巻頭言> これから——平和日本をとりもどす

1960年5月20日未明。圧倒的多数の人びとに包囲された国会の中で、国民多数の反対を押し切って、岸内閣・自民党は「安保改定」法案を強行採決した。

この日を境に日本全土で「民主主義を守れ」と言う国民の政治的エネルギーが爆発する。総評傘下の労働組合が結束して多くの職場でストライキが決行され、大学は全学連がリードして事実上の休校となり、各地の商店も店を閉めた。そして人々は国会へ結集した。安保改定阻止国民会議には1,600を越える団体が参加し、15次にわたる統一行動を展開した。当時の民主勢力には積み上げてきた強力な組織力があつた。

しかし、この怒りは紆余曲折を経て、日米政権の様々な懐柔策に抑え込まれてしまった。今日では、労働運動も学生運動も退潮して、当時と比べようもない。政界は二大政党化のまやかしに騙されて自民・公明勢力が国会を牛耳る状況に落ち込んでしまっている。いつの間にか、世の中一見豊かで便利でモノが溢れ、その実、生きにくい格差社会になってしまった。

けれども、その変遷の中でも、「九条にノーベル賞を」ということが現実味

を持つまでに、日本中に「九条」の孢子が拡散していた。70年の戦争のない暮らしを経験してきた日本国民に「もう二度と戦争は御免だ」、「平和憲法を大事にしよう」という気持ちがしみ込んでいたのである（実はその裏で日本は毎年5兆円を越す予算を持つ軍事大国になっていたのだが）。

ところがこの9月19日、A級戦犯にして日本国総理大臣になった岸信介の孫、安倍晋三の率いる自民・公明政権によって、憲法の平和理念を放棄して「戦争のできる普通の国」に変質させる法制化が、国民多数の「戦争NO!」の声を無視して国会で強行採決された。再び煮え湯を飲まされてしまった思いである（これではノーベル賞はもうない!）。

今回の国会前を埋め尽くし、各地の集会に集まった人々の多くは、1960年当時と違って、組織動員ではなく、SNS情報を検索・交換し合って、自主的に足を運んだと言われている。一人一人が考え、自己責任において行動する時代になった。ここまで民主主義が育っている。

強行採決から1か月。わたしのところには「法案廃止」の集会の案内が次つぎに飛びこんでくる。国会前には「ここから、これから」の手書きのプラカードを持ったおばさんがいた。そうなんだ、法的に、また実行場面で問題が起こるのはこれからだ。運動の継続・広がり、60年安保の時よりしぶといかと思う。さあ、私も考え、行動しよう。

今日はつくばセンター広場で行われるアクションに参加する。

(2015.10.24 記)

塩谷哲夫

山崎農業研究所幹事

yamazaki@yamazaki-i.org

<お知らせ 1> 山崎農業研究所所報『耕 No.136』発行されました

山崎農業研究所所報『耕 No.136』が発行されました。

ご希望の方には雑誌を頒布いたします。

yamazaki@yamazaki-i.org

までご連絡ください。

《土と太陽と》(巻頭言)

誰のための被災地復興かを改めて問う◎渡邊 博

[第 150 回定例研究会] 自然災害を考える新たな視点

II 豪雨災害に備える自主防災力向上を目指した地域活動の展開◎重岡 徹

[第 151 回定例研究会] 「新基本計画」＝農政改革の車の両輪を問う

解題：農業生産現場から見た「食料・農業・農村基本計画」◎小泉浩郎

I 新「基本計画」と農政転換◎森島 賢

II EU の農政改革と農村◎市田知子

参加者の声—地域の土地と農を守る◎人見みゐ子／山崎繁雄／佐々木哲美

[特別寄稿]

・惨事便乗型資本主義の行方は何か？

—格差拡大、戦争経済、独裁ガバナンスの道をひた走る日本◎西川 潤

・都会人よ、田舎へ大移動を！◎長谷川 浩

〈連載〉“生きもの語り”の世界から(7)

続・百姓仕事の精神性—天地観を取り戻す道／宇根 豊

<お知らせ 2> 山崎農研編「平成のマドンナ」シリーズ No.8 完成しました

山崎農研編集「平成のマドンナ」シリーズ No.8(B5 版・30 ページ) が完成しました。既発行分も含め、電子版あるいは冊子で頒布しています。送料込み 500 円です。ご希望の方は yamazaki@yamazaki-i.org までご連絡ください。

(新刊)

No.8 家族経営協定でいきいき人生にトライ

栃木県那須塩原市

酪農・教育ファーム・レストラン 人見みゐ子さん

(阿久津加居聞き書き)

(既刊)

- No.1 都市近郊に「オアシス牧場」を
埼玉県上尾市 榎本美津子さん（小井川敏子聞き書き）
- No.2 世羅高原のそよ風になりたい
広島県世羅町 井上幸枝さん（後由美子聞き書き）
- No.3 むらにまちに子どもたちにふるさとの味を伝えたい
鳥取県鳥取市 西山徳枝さん（小泉浩郎聞き書き）
- No.4 働きやすい作業環境の改善
徳島県 藍住地区のお母さん達（小林徳子聞き書き）
- No.5 「奥久慈の味」から広がる出会い
茨城県大子町 齊藤キヌ子さん（臼井雅子聞き書き）
- No.6 デパートに進出した農村女性
栃木県宇都宮市 アグリランドシティショップ（阿久津加居聞き書き）
- No.7 貧しさに学びこころ豊かに生きる
群馬県嬭恋村 丸山みち子（丸山みち子著）
- No.8 家族経営協定でいきいき人生にトライ
栃木県那須塩原市 人見みみ子さん（阿久津加居聞き書き）

<新刊紹介>

安富六郎著『武蔵野・江戸を潤した多摩川——多摩川・上水徒歩思考』

「学生時代から歩くことが好きだった」という著者が多摩川河口から源流までの歩き継ぎを思い立ったのは70歳のとき。岡本かの子が多摩川について書いた『川』には「水源は水晶を産し、水は白水晶や紫水晶から滲み出るものと思っていた…」とあるが、水源を自分の目で確かめたいと思ったのがきっかけだった。

川沿いに1日歩いたら電車などで帰る、そして次の機会には、前回の到着点から出発する。これが「歩き継ぎ」だ。平場はともかく、源流に近づくにつれ難所も相次いだ。河口から源流までは140キロほどだが、まわり道をしなくてはならない箇所も多く、多摩川から取水される玉川上水をはじめとした古い用水や歴史遺構、神社仏閣にも足をのぼし、最終的には300キロ以上歩いたという。

わが国の水利用の歴史をみるかぎり水田開発が中心であった。ところが関東ローム台地や谷津が組み入った土地条件では、それとは異なる技術が必要とさ

れる。台地開発の技術が従来の水田開発とどう異なるのか、水をめぐる技術がどのように伝承されたのか。現場の事例から見直したいと著者は思った。

多摩川を水源とする用水（上水）は数多い。本書で取り上げている用水（上水）は、二ヶ領用水、六郷用水、府中用水、玉川上水、野火止用水、青山上水、千川上水、三田上水など。玉川上水に先行してつくられた二ヶ領、六郷、府中用水と玉川上水との関係や玉川上水にまつわる秘密（施工期間の短さや取水位置の確定方法）、野火止用水開通の歴史的記述（「用水開通3年説」）についての自説の展開、千川上水、青山上水、三田上水といった今日ではかえりみられることの少なくなった上水の水路位置の推定や、それらがかつて果たした役割の考察など、興味深い記述が随所にみられる。

本書は、河川全域で見聞し、感じたことを記した「第Ⅰ部 多摩川源流を訪ねて」と、多摩川から取水された上水・用水について述べそれら相互の関連、人との関わり、社会の流れを見る「第Ⅱ部 武蔵野・江戸を潤した多摩川の上水・用水」からなる。

まえがきにある「水と土、人間万歳」「水は文化を運ぶ」といった言葉に込められているのは、上水・用水の開発にかかわった職人や技術者への尊敬の念、市井の人びとや農民たちの水とともにある暮らしへの共感であり、本書の基調をなす。多摩川・上水と人びととの関係について歴史的、技術的、文化的にと重層的に描いた本書は、自然と人間の関係を今日的な視点から総合的に捉えなおすうえで格好の書。

◎安富六郎著『武蔵野・江戸を潤した多摩川——多摩川・上水徒歩思考』

<http://www.amazon.co.jp/dp/4540142631>

農山漁村文化協会

A5判・並製・199頁

ISBN-10: 4540142631

ISBN-13: 978-4540142635

1836円（税込み）

◎著者

安富六郎（やすとみ・ろくろう）

1932年、東京都生まれ。東京大学農学部卒業。東京農工大学名誉教授。山崎農業研究所前所長。農学博士。著書に『環境土地利用論』（農文協、1995年）、

『身近な水の環境科学』（環境修復保全機構、2004年）、『農地工学』（共著、文永堂出版、2008年）、がある。

山崎農業研究所会員・田口 均
yamazaki@yamazaki-i.org

<編集後記> 民主主義における勝ち負け

辺野古基地建設をめぐる政府の暴力がとどまるところをしらない。沖縄県による埋め立て承認取り消し（10/13）からひと月もたたない昨日（10/29）、本体工事が着手された。法的な決着は何もついていないのに、である。

こうしたなか「辺野古基地反対運動は敗北した（する）のではないか？」と思う人もいるだろう。たしかに政府のなりふり構わなさをみていると、厳しいなあとも言いたくなる気持ちもわからないでもない。

しかし、である。わたしは安保法案反対のために国会前に集まった人たちを思い出すのだ。それこそ延べ数十万の老若男女が国会前に集まったと思うが、そのなかで自分たちの「勝ち」を確信していた人はどれほどいただろうか。もっといえば「勝つから、勝てそうだから」デモなどに参加する、というのも少しおかしい話のようにも思えるのだ。

目の前の不条理に No の声を上げること、それがまずは、そしていちばん大切なのだということ、それを多くの人たちが知った・知ってしまった——これこそが、安保法案をめぐるうごきのなかで、最大の成果だったのではないか。

政府・与党はこの国民の目覚めをたいへん恐れているように思う。だから沖縄県出身者を沖縄担当大臣にすえるし、だから強制的に工事に着手するし、だから選挙で選ばれたのでもない地元団体に対して県・市の頭越しに地域振興費を直接交付しようとするし、だから……

「勝ち・負け」でいえば、沖縄県はやはり不利だと思う。しかし、人は「勝ち・負け」という基準だけで生きているのではない。人は勝つから行動し、負けるから行動しない、というのでもない。そして、中央との関係からみればたとえ負けのようにみえたとしても、民主主義の可能性、民主主義の未来に与える

影響という観点からみれば、沖縄の人たちはすでに圧倒的に勝者であるとわたしは思う。

2015年10月30日

山崎農業研究所会員・田口 均

yamazaki@yamazaki-i.org

山崎農業研究所編・発行／農山漁村文化協会発売

『自給再考——グローバリゼーションの次は何か』

(発売：2008/11 定価：1,575円)

http://shop.ruralnet.or.jp/b_no=01_4540082955/

たくさんのお書評・紹介記事をいただいています。感謝・感謝です。

◎辻信一さん (文化人類学者、ナマケモノ倶楽部世話人。明治学院大学教授)

グローバルの次は何? ～卒業するゼミ生諸君へ

<http://www.sloth.gr.jp/tsuji/library/column64.html>

◎戒谷徹也さん (大地を守る会)

ブログ：大地を守る会のエビちゃん日記 “あんしんはしんどい”

「自給率」の前に、「自給」の意味を

<http://www.daichi.or.jp/blog/ebichan/2008/12/16/>

◎吉田太郎さん (長野県農業大学校教授、執筆者)

キューバ有機農業ブログ 自給再考の本が出ました

http://pub.ne.jp/cubaorganic/?entry_id=1822182

◎関良基さん (拓殖大学政経学部)

ブログ：代替案 書評：『自給再考——グローバリゼーションの次は何か』

<http://blog.goo.ne.jp/reforestation/e/cb22650fa39384bdd22b61440fa81fa0>

◎大内正伸さん (イラストレーター・ライター)

ブログ：神流アトリエ日記 (3) 「書評『自給再考』」

<http://sun.ap.teacup.com/applet/tamarin/20081204/archive>

◎ブログ：本に溺りたい グローバリゼーションの次は何か

<http://renqing.cocolog-nifty.com/bookjunkie/2009/01/post-841e.html>

◎森川辰夫さん

NPO 法人 農と人とくらし研究センター／資料情報

<http://www.rirel.jp/shiryo.htm>

◎日本農業新聞／書評

(2009/01/19 評者：日本農業新聞編集委員 山田優)

<http://yamazaki-i.org/>

(画面トップの「書評はこちらから」よりアクセス下さい)

◎小谷敏さん (大妻女子大学)

日本海新聞コラム「潮流」／「自給」の方へ (2009/01/31)

<http://blog.goo.ne.jp/binbin1956/e/c895f6619b30ba7725e264b4daa75219>

◎白崎一裕さん ((株) 共に生きるために)

月刊とちぎV ネットボランティア情報 vol.158／しみん文庫

<http://yamazaki-i.org/>

(画面トップの「書評はこちらから」よりアクセス下さい)

◎塩見直紀さん (半農半X 研究所、執筆者)

ブログ：半農半Xという生き方～スローレボリューションでいこう！
立国集。

<http://plaza.rakuten.co.jp/simpleandmission/diary/200812270000/>

◎お願い「<読者の声>の投稿規定・メールの書き方」

- 1、件名（見出し）を必ず書いて下さい。「はじめまして」は省略して、言いたいことを具体的に。
- 2、氏名・ハンドルネームは、文末ではなく始めのほうに。
- 3、1回1テーマ、10行位に。
- 4、ホームページを持っている人は、文末に URL を。
- 5、JIS X0208 規格外の文字（機種依存文字）のチェックを。

<http://www.chem.sci.osaka-u.ac.jp/networks/check/jisx0208.html>

インターネットで使えない丸数字や半角カタカナ、括弧入り略号などは文字化けの原因です。

次回 385号の締め切りは11月09日、発行は11月12日の予定です。

<本誌記事の無断転載を禁じます>

隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」 第384号

最新号・バックナンバーの閲覧

<http://archive.mag2.com/0000014872/index.html>

<http://nazuna.com/tom/denshico.html>

購読申し込み／解除案内

<http://www.yamazaki-i.org>

2015.10.30（金）発行 山崎農業研究所&編集同人

<mailto:yamazaki@yamazaki-i.org>

***** ここまで『電子耕』*****